

☆ 知っていますか？ 聴導犬のこと ☆ 民生児童委員協議会

外見からはわからない聴覚障がい。日々の生活で感じる不安や願いを知るため、このたび民生児童委員協議会は「安心と安全」を運ぶ聴導犬の役割を学ぶため、10月16日に長野県駒ヶ根の日本聴導犬協会を視察しました。目的地は緑豊かな高原にありました。

聴導犬は、目覚まし時計、玄関チャイム、子どもの泣き声、呼び鈴、火災報知器など、生活に必要な音や命を守る音をユーザーに知らせます。特に東日本大震災では、聴覚障がい者の死亡・不明者が健常者の3倍であったという事実から、災害時のリスクコミュニケーターとしての役割も極めて重要です。社会とユーザーをつなぐ大切な情報の仲介役なのです。

盲導犬と異なり、聴導犬はかわいい小型犬が多いのが特徴です。同協会では、主に保護犬や譲渡犬の中から才能のある犬を育成し、身体障がいのある方へ無料訓練、無料貸与、無料アフターケアを実施されています。聴覚障がいの方にとって聴導犬はかけがえのないパートナーですが、国からの補助はわずかで、運営費の98%は皆さんの寄付と募金で支えられています。私たちの活動が、聴導犬訓練活動支援の一助となり、聴覚障がい者の方々の「安心」につながることを心より願っています。



☆ 地域に響く、若き情熱の調べ ☆ 一宮北高校和太鼓部

1975年（昭和50年）開校で、昨年50周年を迎えた県立一宮北高等学校。今回、同校の和太鼓部「一北和太鼓」を訪ねました。部室から聞こえてくる軽快で力強い和太鼓の演奏は、11月2日の葉栗文化祭のオープニングセレモニーに向けた練習の真っ最中。総勢11名の部員が、場所を交代しながらパチさばきを繰り広げていました。

一北和太鼓部は、2002年（平成14年）に10名で同好会として発足。先輩から後輩へとリズムを体で教え込み、「風の彷徨」「炎舞物語」「碧之拍道」など現在7曲が脈々と受け継がれています。太鼓の演奏には体力も不可欠なため、筋力トレーニングやランニングにも熱心に取り組んでいます。

一宮市内の県立高校で和太鼓部があるのは同校のみ。和太鼓への憧れから入学する生徒も多く、卒業後も地元のと太鼓クラブで活躍する卒業生もいます。年間20回以上、葉栗文化祭、木曽川堤サクラまつり、島村厄除けまつり、交通博、一宮七夕まつりなど地域の様々なイベントで演奏を披露し、日本の伝統芸能を守り続けています。若い世代が地域に活力を与える活動を、今後とも応援していきたいものです。

